

リユース促進に向けた懇談会（第3回）
地域循環プラットフォーム事業のご説明



2025年4月21日
代表取締役社長
加藤 貴博

会社概要

会社名	株式会社ジモティー
所在地	東京都品川区西五反田1-2-10
設立	2011年2月（2020年2月に東証グロース市場に上場）
事業内容	クラシファイドサイト「ジモティー」の企画・開発・運営 自治体との共同運営店舗「ジモテースポット」の企画・開発・運営
従業員数	157名（2024年12月末時点）

プラットフォームサービス「地元の掲示板 ジモティー」概要

- いらなくなった家具や家電などを直接地域で0円、もしくは有料でお譲りする
- 犬や猫の里親を募集したり、農産物の収穫のお手伝いの募集をする
- 様々な地域の助け合いにご利用いただいている



会員登録総数

約**1,500**万



アプリ総DL数

約**1,700**万

提供カテゴリ

-  売ります・あげます
-  中古車
-  不動産
-  アルバイト
-  正社員
-  地元のお店
-  教室・スクール
-  イベント
-  メンバー募集
-  里親募集
-  助け合い

捨てずに譲るを広げるために自治体と連携を推進

- 2025年4月現在全国で221箇所の自治体様とリユース協定を締結、捨てずにジモティーで譲ることを推進
- 自治体様と共同運営のジモテースポットを15店舗を運営中、今年25店舗～、5年以内に300店舗への展開を目指す

行政との連携ステップ

リユースの啓発から共同でのリユースモデルの構築まで各行政のニーズに合わせて検証を実施



パターン3：官民共同リユース

より多くの回収品をジモティーを通して住民に譲渡できるスキームを共同で構築



パターン2：自治体回収品のリユース

自治体が回収したモノのうち一部の再利用が可能な商品をジモティーに掲載し譲渡先を探す



パターン1：リユースの啓発

自治体の冊子やWEBサイトでジモティーを紹介。自治体に回収を依頼する前に自ら譲渡先を探してもらう



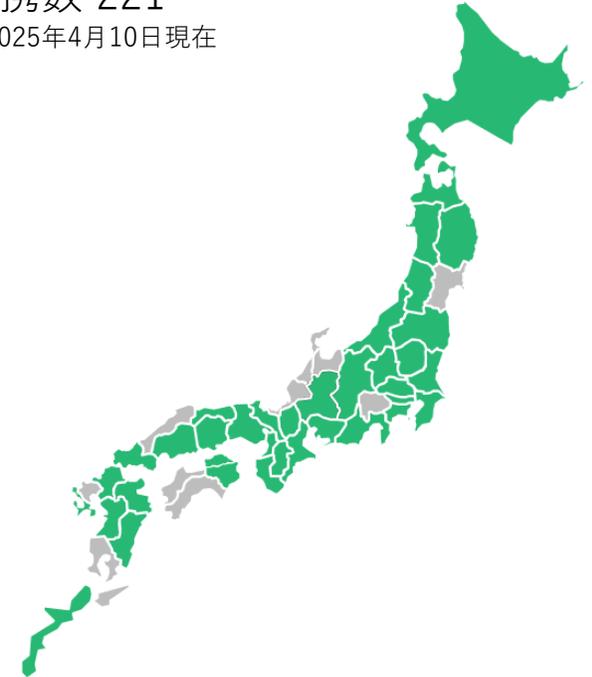
ジモテースポット

(事例) ジモスポ出店先
世田谷区、日野市、八王子市
品川区、川崎市、横浜市
町田市、相模原市、千葉市
船橋市、名古屋市、小牧市
静岡市、岸和田市/貝塚市

連携自治体

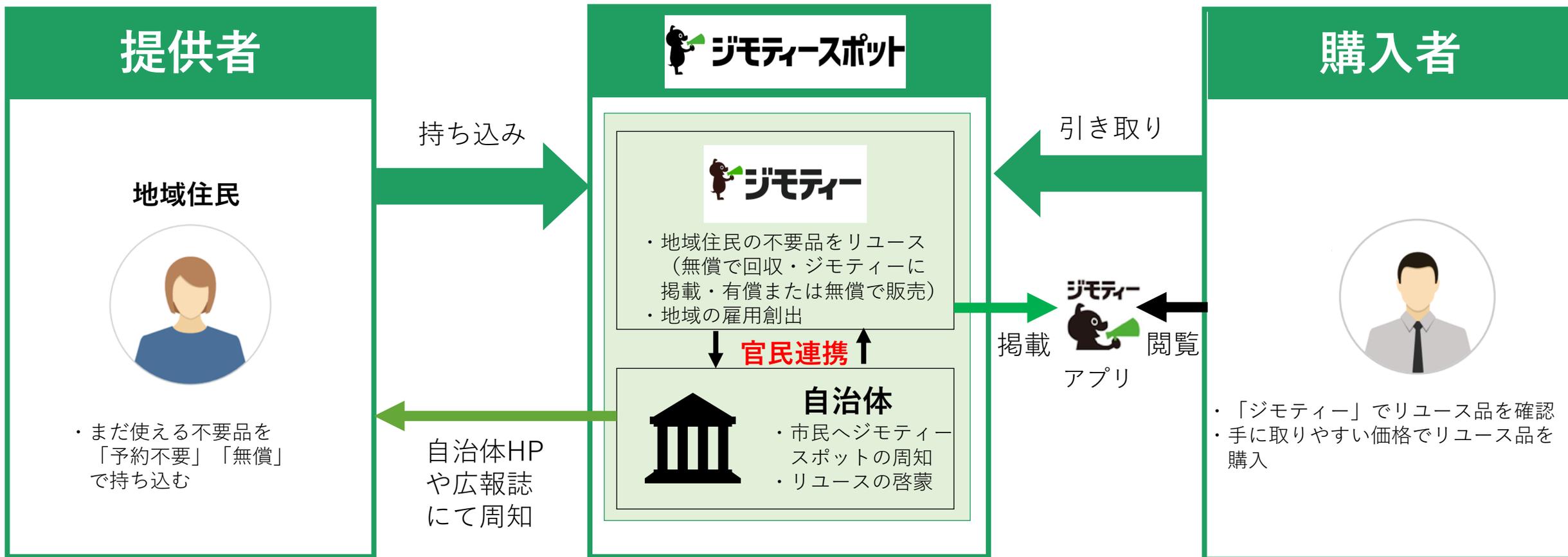
連携数 221

※2025年4月10日現在



ジモティースポットの特徴

- 自治体HPをご覧いただいた地域住民の皆様がジモティースポットへ不要品を持ち込み
- 持ち込まれた商品が無償で受け取りジモティーへ掲載、販売を行うことでゴミ減量しながら収益を獲得できる
- 使えるものであれば約98%をリユースすることに成功



真の循環型社会システムの構築を経済成長と同時に実現

ジモスポの取り扱い品

使えるものであれば
なんでもOK

高級品
金プラ・着物・骨董品

リセールバリューが
一定以上のある品物

ゴミとして廃棄されてしまう
可能性の高いもの
(相対的に価値の低いもの)



商品展示・販売
いらぬものはない、
という思想



スタッフ
地域人材・シルバー人材・
障がい者の積極的雇用

98%以上のリユース
を目指すシステム

ジモスポの販売チャンネル



リサイクルショップ
各種ネットサービス

海外への輸出

出店事例

- 路面店、ショッピングモール、自治体施設の委託、半官半民施設内と幅広く店舗展開
- 直営店の他、フランチャイズ契約による出店も進めている

川崎市 路面店

出店時期：2024年4月
売り場面積：約70坪



千葉市

ショッピングモール

出店時期：2025年3月
売り場面積：約100坪



世田谷区 自治体施設の委託

出店時期：2021年10月
売り場面積：約70坪



小牧市(FC)

半官半民施設内

出店時期：2025年1月
売り場面積：約40坪



出店事例：ジモティースポット川崎菅生店（直営）



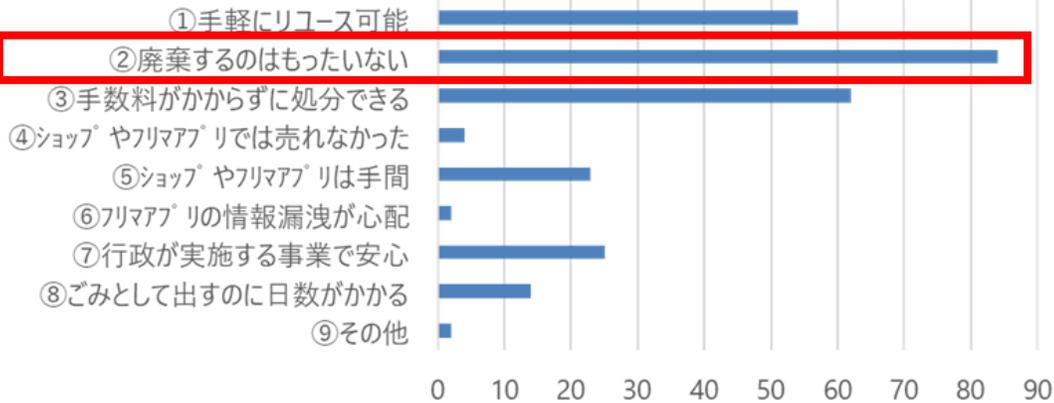
ジモティースポット川崎菅生店
川崎市宮前区菅生4丁目14-5
店舗面積約70坪 駐車場15台

【利用者アンケート結果】

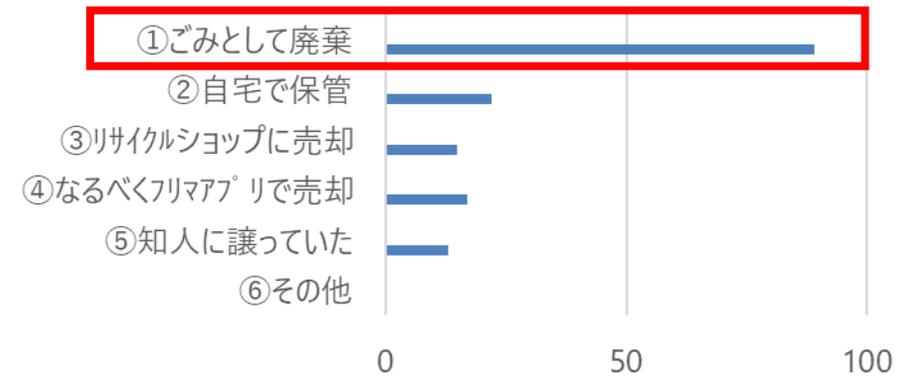
- これまでゴミとして廃棄していたものをお持ちいただいている方がほとんど
- 廃棄するがもったいない、という意識からお持ち込みいただいている

持ち込み者100人のアンケート結果

Q スポットを利用した理由



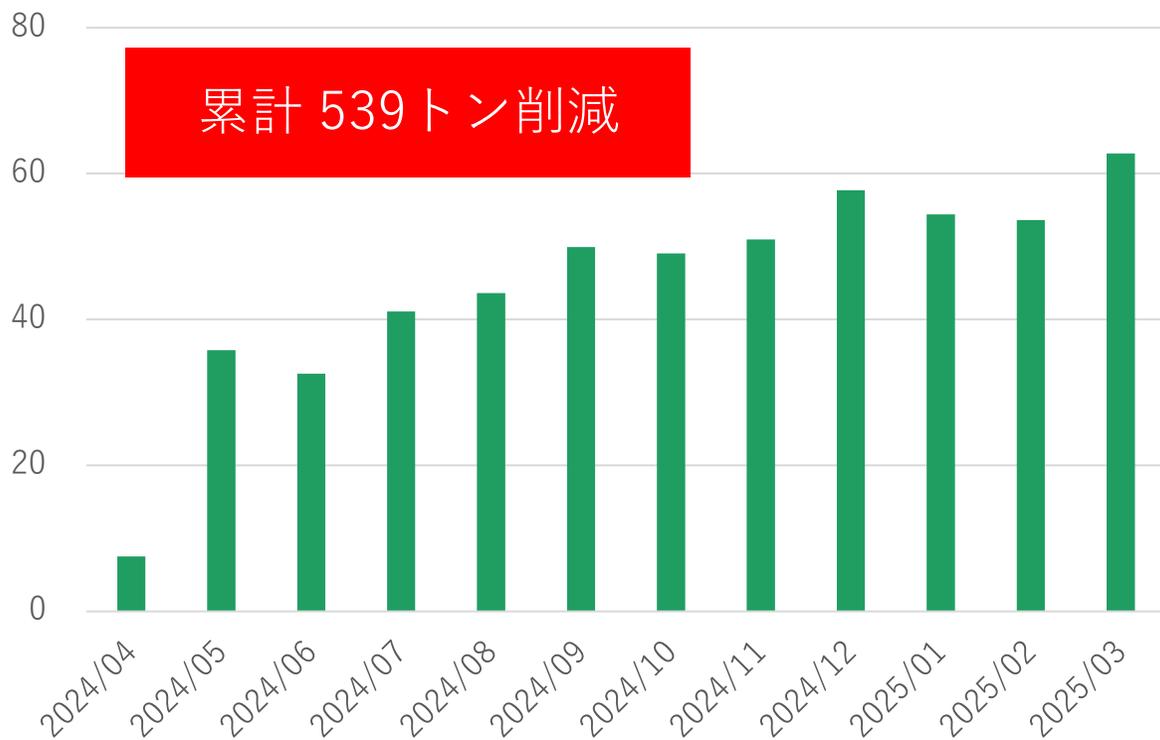
Q これまでまだ使用できるが不要になったものは、どうしていたか？



ゴミ減量の実績

ジモティースポット川崎菅生店

- 従来は粗大ゴミとして処理していたものがリユースされることにより、2024年4月開店より累計539トン、直近月は63トン（年換算750トン以上）のゴミ減量に寄与している



世田谷区 of 経費削減効果を試算

- 2021年10月6日～2022年3月31日の約6か月間（リユース量68.3トン）、世田谷区にて行った実証実験により、粗大ごみ収集車両の削減効果分、年換算約1,700万円の財政効果があることを試算

財政効果額の試算は年間約1,700万円

ニュースリリース

官民連携のリユース拠点開始から半年で約68tの粗大ごみ減量効果 | 財政効果額の試算は年間約1,700万円

2022年5月26日

持ち込まれた不要品の約95%をリユースし1.2万品の受け渡しに成功

地域の情報サイト「ジモティー」（以下、ジモティー）を運営する株式会社ジモティー（本社所在地：東京都品川区 代表取締役社長：加藤 貴博 以下、当社は、東京都世田谷区（区長：保坂 展人 以下、世田谷区）と2021年10月6日から実証実験を開始している「世田谷区不要品持ち込みスポット」の半年間の結果をお知らせします。持ち込まれた不要品のうち約95%にあたる約12,200品のリユースに成功し、粗大ごみ減量効果は約68tと試算しております。また財政効果額の試算では年間約1,700万円を想定しております。

■実証実験の結果について

持ち込みを開始した2021年10月6日～2022年3月31日の約6か月間で、世田谷区がピックアップ回収した分も含めて12,854品の不要品が持ち込まれ、そのうちの約95%となる12,206品のリユースに成功しました。ごみの減量効果は、68.3tと試算（注1）しております。期間中、最も多く持ち込まれたのは、家具類

出展：2022年5月26日弊社ニュースリリース
https://jmtj.co.jp/archives/19549/news_release/

ジモティースポットの出店計画

- 2025年度から出店ペースを一気に加速させている（1～4月にて9店舗）
- 5月以降も、他社様との協業を含め、出店ペースを加速させていく予定

【2025年度の出店実績】

1月：小牧（愛知）

2月：横浜、岸和田/貝塚（大阪）

3月：千葉、静岡

4月：船橋（千葉）、相模原（神奈川）、町田（東京）、名古屋2号店

